

ぜん ぎょう じ 善巧寺報

9 月号



月刊 ● 善巧寺報

〒344-0032 埼玉県春日部市備後東4丁目1番17号
TEL 048(734)7660
榎本明覚



● ハミズハナミズ (彼岸花・曼殊沙華) ●

秋のお彼岸頃、急に花茎をのばして真っ赤な花を咲かせる彼岸花には多くの呼称があります。曼殊沙華は『法華経』などの仏典から（サンスクリット語で「赤い花」「天上の花」の意）。また花が咲いている時は葉が無く、花が散った後に葉が茂るところから「葉見ず花見ず」とも言われます。他の植物が枯れる寒い時期に葉を茂らせ養分を球根に溜め込み、夏の間は土中にじっとして秋に花を咲かす。一風変わった生存戦略を持つ植物です。

季節の花

～ ハミズハナミズ (彼岸花・曼殊沙華) ～

▼二〇二二年九月一日▲

定例法座

毎月
十一日

◎九月十一日(土)午後二時

～三時

於 善巧寺 法輪会館

「お通夜・お葬儀の意味」

近年の簡素化傾向、また新型コロナウイルス感染症防止の影響でお通夜を省略するケースが増えています。本来お通夜はご臨終の勤めであり、今正に亡くなっていく方へ今まで頂いてきたご恩への感謝を伝え、労をねぎらう大切な儀式です。親族以外の方は取り急ぎ謝意を伝えるため馳せ参じるという意味で、平服でお参りする事がマナー化されてきました(最近では黒ネクタイの方も多いようです)。通夜にお寺さんをお経をあげるのは浄土真宗においては、声が出せないご臨終を迎えた方の代行として「必ず極楽浄土に迎えとると誓われた仏さまに、今

生最後のご恩報謝を勤める」という尊い意味があります。

お葬儀は、いよいよこの娑婆世界を離れ極楽浄土に参られて仏となられた亡き方が阿弥陀さまと共に私たちを守り導いて下さっている、その事に対する私自身のご恩報謝としてお勤めをします。

茶毘に付しお骨となって還られた後、蓮如上人の『白骨のご文章』を拝読するのも意義深い事です。あるお医者様が「どんなに手を施しても数値が良くなっても、割とあつけなく人は亡くなる」と仰っていました。「朝には紅顔ありて夕べには白骨となれる身」。思い描いていた未来予想図も一瞬で白紙になってしまふ、そうした諸行無常のお互いである事を再認識させて頂く機会でもあるのです。さあこの短い娑婆での一生を無いものねだりを押し付け合って終わるか、与えられた事、思われた事

に感謝することを大事な贈り物として終えていけるのか、選択はあなた次第という事です。

※今回も法輪会館にて、感染対策(消毒・換気・時間短縮)を行いつつ開催いたします。感染力の強いデルタ株が流行しています。引き続きマスク着用でのご参加をお願いいたします。

みほとけ会

新型コロナウイルス感染防止のため集会は休止中です。インターネット上で、毎月第一・第三木曜日の午後八時より ZOOM ミーティングを行っております。

参加ご希望の方は、

jefidget@gmail.com まで

メールをお願いします。開催当日夕方に招待メールを返信いたします。

秋季彼岸会

◎九月二十三日(祝)

午後二時～三時 於 法輪会館

日程

午後二時～ 法要

ひきつづき 法話

「思い込みを捨ててみる」

～仏教の智慧とは～

ひきつづき 報恩堂彼岸会

(報恩堂前でお勤めします)

※雨天時―法輪会館

◆春日部だより◆

◎完全にワクチン接種取り残され年齢組の住職ですが、なんとか今月初めに予約が取れました。感染力が増したデルタ株のせいで、ワクチン接種したら万能!とは言えなくなってきましたが、重症化予防効果は依然高いという事で、徐々に以前の生活に戻

っていただけるのではないかと、思っております。もうひと踏ん張り、公共の場でのマスク着用、密になる会合の回避、こまめな手洗いを引き続き行っていくましよう。

◎浄土真宗で最も大切な法要
『報恩講』

(ほうおんこう)

新型コロナウイルスデルタ株への対策として、本年もお客僧様、ご講師はお呼びせず、短時間、参拝人数制限付きでお勤めいたします。

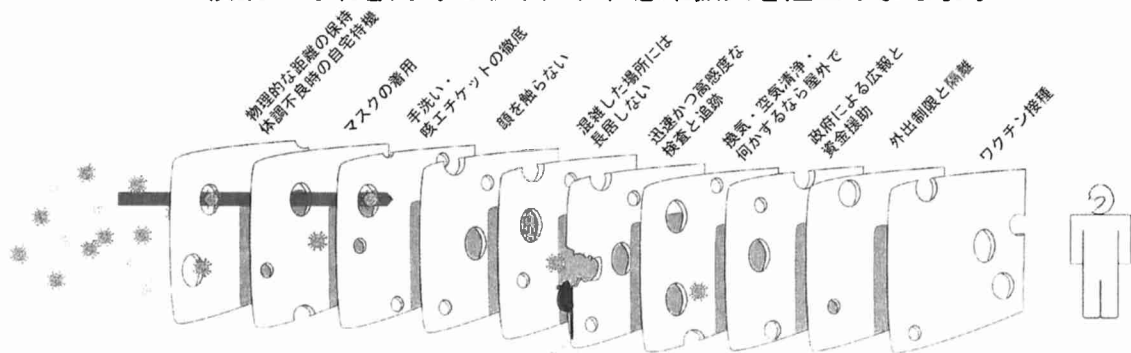
期日は十月十七日 です。

詳細は次号お伝えします。



スイスチーズ式ウイルス感染防御対策

複数の対策を同時に取り入れ、感染拡大を阻止しましょう



個々人の責任

社会の責任

いずれの感染対策(チーズの断面)も単独では不完全(穴がある)です。複数の対策を重ね合わせてやっと大きな効果が期待できます。